

科目区分	専門教育科目	授業科目名	比較文化			科目コード	24L202	担当者	関口 良嗣、堺 蘭、孫 承言			担当形態	単独
対象学科・コース	生活創造学科 ビジネス・医療秘書コース	配当年次	2年次	開講学期	後期	単位数	2	必修・選択の別	選択	免許・資格要件	秘書士選択		
授業形態	講義	履修条件									教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	科目区分	
実務の経験を有する教員担当科目		該当	実務の経験内容及び科目との関連	米中韓それぞれその言語のエキスパート講師陣が自らの体験を通して日本文化との比較をあらゆる角度で分析する。									科目に含めることが必要な事項

授業の主題	日中韓そして米国のそれぞれの文化について深掘りし比較研究する。知っているようで知らない文化の違いを学び、よりグローバルな視点を持つことを目指す。	課題等への対応 (フィードバックの方法等)	レポートはコメントを付けて返却し、更なる意見・質問を促す。
授業の方法	講義形式を取るが全般的・概論的にならないようにする。具体的な例を多数取りあげ、日本文化と比較することにより相互理解を深め、どのような摩擦が起こりうるかを受講生自ら考え発表する機会を促す。	アクティブ・ラーニングの実施方法	

回数	授業計画	事前・事後学修	回数	授業計画	事前・事後学修	
第1回	イントロダクション、米国の教育事情（1）【関口】	世界の「BRD」日本の「YZK」；米国のプレスクールからミドルスクールについて調べる	第9回	韓国の社会制度①【孫】	事前・事後学修:韓国の家族制度について調べて日本と比較してみる	
第2回	米国の食生活編【関口】	米国の食文化について調べる	第10回	韓国の社会制度②【孫】	事前・事後学修:韓国の企業文化について調べて日本と比較してみる	
第3回	米国のマナー編（1）【関口】	米国のマナー、日本のマナーについて調べる	第11回	韓国の言語【孫】	事前・事後学修:韓国語と韓国の文字「ハングル」の歴史と仕組みについて調べて日本と比較してみる	
第4回	1955年前後のアメリカ【関口】	アメリカが最も輝いていた時代の文化について調べる	第12回	現代韓国事情【孫】	事前・事後学修:最近の韓国関連ニュースを確認して、日本と比較してみる	
第5回	中国人、中国社会の特徴【堺】	中国社会特徴の復習	第13回	米国の教育事情（2）【関口】	米国のハイスクール以降の教育について調べる	
第6回	中国の文字と文化【堺】	中国の文字と文化の復習	第14回	米国マナー編（2）【関口】	日本の「おもてなし」は米国（諸外国）のマナーに通用するの調べる	
第7回	中国の食文化と「移植同源」思想【堺】	中国食文化の特徴の復習	第15回	言語と文化【関口】	英語の語源や語順が文化に与える影響について調べる	
第8回	中国人の婚姻観・価値観【堺】	中国人の婚姻観・価値観の復習			事前・事後学修時間 (分/授業1回)	180分/授業1回

教科書 [書名/著者名/出版社]	必要に応じプリント等を配布。	受講生へのメッセージ	各国の文化や社会制度、思想の理解を深め、時事ニュースなどに目をとおして見聞を広めグローバルなマインドを育てましょう
参考書 [書名/著者名/出版社]	なし		

評価基準																
	学修成果の大分類	学修成果の中分類 [10の力]	学修成果の 配比率率(%)	評価方法の配比率率(%)					学修成果の小分類			尺度				
				定期試験	臨時試験	提出物	発表内容	受講態度	実習評価	学修成果の到達目標	修得する能力	評価方法/評価指標	レベル5 (S: 100~90%)	レベル4 (A: 89~80%)	レベル3 (B: 79~70%)	レベル2 (C: 69~60%)
観点	尽心	① 学習意欲	90			80	10		異文化の理解が十分に身についており、自らの意見を人前で発表し課題レポートにまとめることができる。	これからの人材に求められるグローバルな視点	クラス貢献・レポート提出	異文化の理解が十分に身についており、自らの意見を人前で発表し課題レポートにまとめることができる。	異文化の理解が身についており、自らの意見を人前で発表し課題レポートにまとめることができる。	異文化の理解が身についており、自らの意見をある程度人前で発表し課題レポートにまとめることができる。	異文化の理解がある程度身についている。	異文化の理解が不十分である。
		② 規律性														
	知識・技能	③ 知識														
		④ 技能														
	創造	⑤ 情報活用能力														
		⑥ 課題解決力														
	表現	⑦ 言語活用能力														
		⑧ コミュニケーション力														
	実践	⑨ 主体性	10					10	グローバルな文化について十分公平に理解でき、他の受講者に偏った見解がないか確認し合うことができる。	課題消化のみに終わらず自ら進んでリサーチする能動的受講態度	他の生徒をも真剣に取り組ませる主体性	グローバルな文化について十分公平に理解でき、他の受講者に偏った見解がないか確認し合うことができる。	グローバルな文化について公平に理解でき、他の受講者に偏った見解がないか確認し合うことができる。	グローバルな文化について公平に理解できある程度他の受講者に偏った見解がないか確認し合うことができる。	グローバルな文化についてある程度公平に理解できる。	グローバルな文化について理解が不十分である。
		⑩ 協働性														
合計			100			80	10	10								